

## 留意事項2

円滑なコミュニケーションをとるために

### 〈関係資料〉



## もくじ

○難聴.....	73
○歯の欠損や口唇・舌の筋力低下、不良な姿勢による話しづらさ.....	74
○失語症.....	74

高齢になるとコミュニケーションをとることが難しくなります。例えば、難聴により相手の話が聞き取りづらくなったり、歯の欠損や口唇・舌の筋力低下、不良な姿勢などによりことばが話しにくくなったりします。さらに脳卒中などによる失語症の影響により、会話の内容が理解出来なかったり、伝えたいことばが出なかったりする場合があります。

その結果、人と会ったり、交流する機会が極端に少なくなり、孤立しがちになる恐れがあります。

この状況を改善するためにも、これらの障がいを理解し、改善に向けた取り組みや支援が大切になります。

## 1. 難聴

### (1) 難聴のチェック ※難聴に関しては、本編も確認下さい。

本編 P.62

- ① 会話している時に聞き返すことがよくある
- ② 聞き間違いが多い
- ③ 相手の言ったことを推測で判断することがある
- ④ 複数での会話でうまく聞き取れない
- ⑤ 話し声が大きいと言われる
- ⑥ テレビやラジオの音量が大きいと注意されることがある
- ⑦ 耳鳴りがする

※これらはあくまでも「目安」ですが、当てはまる項目が多くなったら、一度耳鼻科や耳鼻咽喉科の専門医を受診することをおすすめします。

### (2) 補聴器について

#### ① 補聴器の種類

補聴器の種類には、大きく分けて「耳あな型」「耳かけ型」「ポケット型」の3タイプがあります。



#### ② 補聴器の購入

今はネットでも購入することができますが、補聴器は管理医療機器でありお勧めはできません。補聴器適合技能者がいる認定補聴器専門店で正確な聴力評価や補聴効果の評価を行い、購入することが大切です。

#### ③ 補聴器を使いこなす

補聴器は装用してからすぐに快適に聞こえるというものではありません。補聴器の視聴を行い、日常生活や職場での聞き取りを確認しながら、調整・指導が行われます。そのためすぐに聞こえが良くなるからとあきらめず、専門的な知識を持つ方に相談しながら補聴器に慣れていくことが大切です。

#### ④ 購入後も定期的なフィッティングサポートやアフターケアが必要

補聴器を最も効果的に使用するためには、現在の聴力に合わせて正しく調整されているかどうか重要です。難聴の程度により頻度は異なりますが、加齢とともに難聴は進行していくので定期的なフィッティングサポートが必要になります。また、耳あかがつまってしまうことがあり、補聴器自体の点検やクリーニングも必要です。

## 2. 歯の欠損や口唇・舌の筋力低下、不良な姿勢による話しづらさ

歯の欠損などにより話しづらさが増大します。例えば、上顎前歯の欠損により上の前歯や歯茎などで作られる音（サ行・タ行・ダ行・ナ行・ラ行など）が出にくくなります。

口唇や舌の筋力低下により「はっきりと発音できない」「呂律が回らない」などが出てきます。さらに、高齢による円背姿勢により「声が小さくなる」「長く話せない」などが出てきます。



相手に分かりやすく伝える工夫

- 短く区切ってゆっくり話す
- 姿勢を正して話す
- テレビの音量を下げたり、雑音を少なくして、話しやすい環境を作る
- 定期的に歯科を受診する

## 3. 失語症

脳卒中などの脳血管障がいや事故などの後遺症によって、それまで自由に使っていた、「聞く」「話す」「読む」「書く」ということばの機能が低下することを言います。失語症になるとことばを思うように使えなくなり、家族や友人との会話がうまくとれない、また趣味活動や社会活動への参加が難しくなります。

### (1) 失語症の主な症状

「聞く」障がい



- 聴力の問題ではない
- 聞いて理解することが難しい
- 複雑な内容や長い文は特に難しい
- 復唱が出来ても意味が理解出来ない場合がある

「話す」障がい



- 言いたいことばが思い出せない
- 思ったことばと違うことばが出てくる
- 意味が分からない発話になる

「読む」 障がい



- 文字が見えているのに理解できない
- 一般には仮名より漢字の方が理解しやすい
- 声に出して読むことが難しい
- 音読が出来ても意味が理解出来ない場合がある


「書く」 障がい




- 字が思い出せない
- 違う字や意味不明の字を書く
- 一般的には仮名より漢字の方が書きやすい
- 文章を書くことは特に難しい

(2) 失語症の人への支援 (コミュニケーションの工夫や手段)

○正しい支援

- 子ども扱いしない
  - 先回りせず、ゆっくり待つ
  - 適宜、内容を本人に確認する
  - 短いことばで、分かりやすく伝える
  - 表情や身振りをつけながら伝える
  - 文字や絵、写真などを使う
  - 大事なことは単語でメモを書き、見てもらいながら伝える
- 

×間違った支援

- 本人の考えを代弁してしまう
  - 本人を差し置いて相手と話してしまう
  - 長い文や早口で話してしまう
  - 話題を急に変えてしまう
  - 50音表を使用する
  - 無理に言い直させようとする
- 

(出典) NPO 法人言語障害者の社会参加を支援するパートナーの会和音=編集、ネギシタケハル=イラスト  
『改定 失語症の人と話そう 失語症の理解と豊かなコミュニケーションのために』中央法規、2008年



